

「位置」についての検討表

資料6－11

項目	判断基準		判断結果（可とした理由）
周囲の状況	①宅地化、市街地化が促進される区域でないこと。		申請敷地北側は河川（片桐松川）、東側は河川（天竜川）、西側は会社工場、南側は駐車場である。周辺は非住宅地、住宅地が混在する地域である。都市計画区域マスタープランにおいて、農地系の土地利用が計画されているため、宅地化、市街地化が促進される可能性は低いと考えられる。
	②近隣に教育施設、福祉施設が存在しないこと。		直線距離で約1900mに小学校、中学校がある。搬入経路において、一部通学路と重なる部分もあるが、重なる道路の大部分は歩道がある。また、通学時間帯の搬入は極力避ける事を社員に教育しており安全に配慮していると考えられる。
	③災害発生の恐れが高い区域でその災害により周辺への2次的被害拡大のおそれがないこと。		浸水予想地域（100年に1回程度の大雨を想定）、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域には入っていない。また、過去50年間は災害に見まれておらず、災害により周辺への2次的被害拡大のおそれは少ないと考えられる。申請敷地は、三六災害に見舞われた地域に属するが、片桐松川及び天竜川の治水対策が進んだこともあり、2次的被害拡大のおそれは少ないと考えられる。
環境への配慮	①施設設置に伴い公害対策の関係法令に関し適合することが認められること。	大気	計画建築物の増築による排ガス等の発生はない。 焼却設備及び炭化設備の排出ガスの測定を2回/年、ダイオキシン類の測定を1回/年としており基準値以下を厳守している。
		水質	申請敷地内から流れ出る可能性のある油水是、油水分離槽を設け対応。また、2回/月基準以下を厳守している。また、計画建築物内には液垂れ防止溝を設け外部への流出を防止している。
		騒音	計画建築物は保管施設のため、発生源となる機械はないが、新設する脱臭設備からの騒音が予想される。最も住宅地に近い道路境界付近の騒音予想は52.2dBであり、騒音規定法 第三種区域の規制値である夕方65dB、夜間55dBを下回る結果となっている。
		その他 臭気	悪臭防止法に規定する規制地域には指定されていないが、臭気対策を行い、2回/年自主検査を行っている。新規の脱臭設備を設置する計画もある。計画建築物においては、ダンプで搬送してきた汚泥をおろすときの臭気拡散防止策として受入建屋も計画している。
運搬車両の周辺地域への影響	①交通渋滞による道路交通に支障ないこと。		計画建築物の増築による搬入車両（20台/日）の増加はなく、周辺に新たな交通渋滞が発生する可能性は少ないと考えられるため、交通渋滞による道路交通に支障はないと考えられる。
	②交通安全上支障がないこと。		申請敷地の前面道路では徐行運転としており、交通安全についても社内教育を徹底している。また、車両の出入口等にミラーを設置し、見通しを確保しているため、交通安全上支障ないと考えられる。
	③運搬経路沿道の居住環境を害さないこと。		運搬経路は沿道の住民への影響を考慮し、幅員の広い主要道路を利用している。また、施設への夜間早朝の搬入は避けており、搬入時間は7:00～17:00までとしており、運搬経路沿道の居住環境への影響は少ないと考えられる。
景観への配慮	①施設の高さ、大きさに応じて、植栽等により、景観への配慮がされていること。		計画建築物の色彩計画は他の建築物と統一的な色調としている。また、申請敷地には植栽が配置されており、景観への配慮がされている。